

午後Ⅰ試験

問1

出題趣旨	
<p>DX を実現する手法としてアジャイル開発を採用する企業が増えている。それに伴い、従来分業していた開発担当者と運用担当者が、システムのサービスやビジネスのゴールを共有すること（DevOps）が求められるようになってきている。アジャイル開発のメリットを生かすためには、DevOps のプロセスに存在するリスクを認識した上で、リリースサイクルの短縮や品質の向上を実現していく必要がある。</p> <p>本問では、DevOps を適用したシステム開発・運用の監査を題材として、アジャイル開発手法や DevOps の特性、メリット・デメリットを理解し、これらを効果的に活用するためのコントロールやマネジメント方法を提言する能力、及び開発・運用業務を監査する場合の監査手続を設定する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(i) 開発と運用の職務の分離	
	(ii) 本番環境へのアクセス権を常時付与せず、必要なときに一時的に付与すること	
	(iii) 本番環境へのデプロイや CI/CD ツール設定の変更がスクラムマスターに通知されること	
設問2	ユーザー受入テストが自動化の範囲に含まれていないこと	
設問3	コーディングルールの遵守を各開発チームに徹底すること	
設問4	単体テストステージのビルド、デプロイ、テストが自動化されるように設定されていること	

問2

出題趣旨	
<p>システム監査では、監査手続の実施によって監査証拠を入手し、合理的な根拠に基づき監査の結論を導く必要がある。そのためには、監査の実施記録である監査調書に基づいて監査報告書を作成する必要がある。また、監査調書には、リスクとそれに対応する監査目標を踏まえて、システム監査人が実施した監査手続とその結果、及び発見事項を記載し、監査責任者によるレビューを受ける必要がある。</p> <p>本問では、基幹システムの信頼性及び安全性に関する統制の整備状況・運用状況の監査を題材として、監査調書に基づいて合理的な指摘事項及び改善提案を含む、監査報告書を作成する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	統制の整備状況と運用状況についての評価が明記されていない点	
設問2	変更したプログラムの本番環境へのリリース時に変更管理ツール上での申請、承認機能を活用する。	
設問3	本番環境のプログラムに対する全ての変更ログについて、システム変更申請書があることを確かめる。	
設問4	本番環境におけるインシデント発生時の緊急対応	
設問5	情報システム部長の退職に際して部長のノウハウの伝承が適切に行われない。	

問3

出題趣旨	
<p>企業における IT 活用が高度化するにつれて、利用する IT サービスの種類や規模は拡大している。IT サービスを提供する仕組みをできるだけ企業グループ全体で一元化して、効率良く、かつ、迅速に提供することが、事業を展開する上でも重要になっている。それを可能にするための IT サービス管理システムを整備する際には、当該システムに固有のリスクを踏まえて、対応するコントロールを整備・運用する必要がある。</p> <p>本問では、IT 部門が企業内へ提供する IT サービス管理システムの監査を題材として、企業グループとしての業務管理に係るリスクとコントロールを踏まえて監査を実施する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	a 申請を一覧画面で承認できる機能について、利用者の上長への提供を検討していること	
設問 2	b 必要リソースが一定規模を超える見積りの回答は SI サービスチームの部長に回付される	
設問 3	c 定型サービスの仕様や利用料単価を改定する手順	
設問 4	d IT サービス利用料の請求に漏れが生じる	
設問 5	e 締切日の変更についての経理部との協議の議事録を閲覧すること	
設問 6	f 定型サービスのサービスカタログにリードタイムの目標が明記される予定になっていること	